

教科(科目)	国語 (現代の国語)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年 (農科)
使用教科書	第一学習社『高等学校 現代の国語』				
副 教 材 等	尚文出版『国語必携 パーフェクト演習』 浜島書店『常用漢字の1・2トライ』 教研出版『プレミアムカラー国語辞典』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での的確な理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- ① 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。
- ② 論理的に考える力を深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広がり深めたりすることができるようにする。
- ③ 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生用こたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

進学・就職希望者が多岐にわたっていることから、

- ① 基本的な言語事項の習得を重視し、特に常用漢字の確実な習得と、文章を的確に理解し自分の考え方を確立させることを目指します。
- ② 関こそれらを的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。
- ③ 自身の考えを的確に表現するための文章能力を養います。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習の取り組み態度
・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力を深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広がり深めようとしている。	・ 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広がり深めたりしから、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉の効果的に使おうとしている。

4 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習の取り組み態度
評価方法	以上のことを踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への参加の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの意図の分析などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への参加の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの意図の分析などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		
	内容のまとまりごとの評価規程を授業で説明します。		

5 学習計画

	単元名	授業領域と領域	教 材 名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	話して伝える	4 「A 話すこと・聞くこと」	『話し方の工夫』 『待機表現』	・ 話し言葉と書き言葉の差を理解する。 ・ 相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解し、実際に発言してみる。 ・ 相手より伝わりやすい表現方法を理解し、発表しあう。 ・ 敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 ・ 敬語表現を適切に用いられる視点を理解し、課題に沿ってつくりこむ。	4	ワークシート 発表の様子 活動の様子
	理解編1	6 「B 書くこと」	『生き物として生きる』	・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・ ものの見方や捉え方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・ 常用漢字を活用する。	6	授業態度 理解編 ワークシート 定期考査
5	理解編1	5 「B 書くこと」	『本当の自分』(女児)	・ 文章に含まれている情報を相互に関連づながら、内容を理解する。 ・ 自己と他者について述べた文章を読み、自分の考えを論述する。 ・ 常用漢字を活用する。 ・ 筆者の主張を自分自身や、周囲の人と引き寄せて考える。	5	授業態度 理解編 ワークシート 定期考査
	定期テスト				1	
6	話して伝える	4 「A 話すこと・聞くこと」	『論理的な表現』 『情報の探索と選択』	・ 説得力を意図した表現の仕方を理解する。 ・ 進んで主張と根拠と理由の対比の有用性を理解し、学習課題に沿って話し合う。 ・ 必要な情報を探し、情報の信頼性や妥当性の争点の仕方を理解する。 ・ 情報の妥当性を具体的に検証し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。	4	授業態度 活動の様子 発表、報告 ワークシート 定期考査
	理解編2	6 「C 読むこと」	『水の東西』	・ 東洋の文化との関係を用いながら、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を理解する。 ・ 自分の考えや価値を伝えるように工夫しながら、比較的文章を読んでの自分の考えを論述する。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。	6	授業態度 理解編 ワークシート 定期考査
	論理分析	6 「C 読むこと」	『問』の感想	・ 文章に含まれている情報を相互に関連づながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・ 論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を活かして筆者の主張をまとめる。	6	授業態度 理解編 ワークシート 定期考査

	理解編3	4 B書くこと	「無彩色」	・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。 ・本文で例示された「茶の湯」と「利休」について調べたことをまとめ、他の生徒と共有する。	4	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
7	話して伝える	6 A話すこと・聞くこと	「スピーチで自分を伝える」①	・自分の意見を大勢の聞き手にかかりやすく伝えるスピーチの方法を理解する。 ・材料を集め、表現話し方を工夫し、今までの学習を活かし、効果的に話す。 ・評価シートを活用して評価する。	6	授業進度 発表・報告 ワークシート
	理解編4	5 C読むこと	「現代の『論議性』」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握し、内容を解釈する。 ・情報やメディアの現状について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。	5	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
8	理解編4	5 B書くこと	「鏡」 「文学のしるべ」	・比喩や言い換えなどの修辞を理解する。 ・人の内面を描写し、その心を読み解くなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。	5	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
	話して伝える	6 A話すこと・聞くこと	「スピーチで自分を伝える」②	・自分の意見を大勢の聞き手にかかりやすく伝えるスピーチの方法を理解する。 ・材料を集め、表現話し方を工夫し、今までの学習を活かし、効果的に話す。 ・評価シートを活用して評価する。	6	授業進度 発表・報告 ワークシート
9	理解編4	4 B書くこと	「フェアな競争」	・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・現代の社会や政治について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。	4	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
	定期テスト				1	
10	書いて伝える	2 B書くこと	「実用的な手紙の書き方」	・実用的な手紙として、依頼文と案内文の書き方を理解し、相手が適切な情報を伝える文章を書く。 ・書いた手紙を批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫する。	2	授業進度 発表・報告 手紙の提出
	論理分析	4 C読むこと	「『私作り』とプライバシー」	・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・主張と論拠、個別と一般化、情報と情報の関係を理解し、論理の展開を分析する。	4	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
11	理解編5	4 B書くこと	「不平等な時間」	・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。 ・世間の常識と粘り強く読み比べ、持続可能な社会に関する意見文を書く。	3	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
	書いて伝える	6 A話すこと・聞くこと	「地域の魅力を紹介する」	・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くための活用する方法を理解する。 ・説明や表現の仕方を工夫して、わかりやすい紹介文を書く。 ・紹介文を批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫する。	6	授業進度 発表・報告 紹介文の提出
12	理解編5	6 C読むこと	「ロビンソンの人間と自然」	・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用し、語彙を豊かにする。 ・自然に対する人間の態度について述べた文章を読み、自分自身の経験も踏まえながら、自分の意見や考えを論述する。	6	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
	定期テスト				1	
1	理解編6	6 B書くこと	「法律の改正に関わる文章を読み比べる」 「日本の労働時間に関わる資料を読み比べる」	・改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら、理解したことをまとめる。 ・情報の妥当性や信頼性の判断の仕方を学び、活用する。 ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめる。	4	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
	話して伝える	6 A話すこと・聞くこと	「理想の修学旅行をプレゼンする」	・効果的なスライドの作り方を理解する。 ・今までの学習を活かして相手・目的・場面を考慮し、プレゼンテーションを行う。 ・話し方を工夫し、今までの学習を活かして効果的に話す。 ・資料や機器を使い、相手の理解を得られる工夫をしようとしている。 ・プレゼンテーションを、評価の観点に沿って評価する。	6	授業進度 活動の様子 発表・報告 ワークシート
2	書いて伝える	4 B書くこと	「自校の生徒の生活実態を調査する」	・目的に沿った調査の方法を理解し、実施する。 ・報告文の書き方を理解し、実施し、評価する。 ・目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味する。 ・書いた報告文を互いに批評し合い、批評を踏まえて情報の扱いや表現の仕方を工夫する。	3	授業進度 発表・報告 調査とまとめ 報告文の提出 ワークシートの提出
	論理分析	4 B書くこと	「デザインの本意」	・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・主張と論拠、個別と一般化、情報と情報の関係を理解し、論理の展開を分析する。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を活かして要旨をまとめる。	3	授業進度 習得評価 ワークシート 定期考査
3	書いて伝える	2 B書くこと	「社会に対する意見文を書く」	・自分の経験の中から意見を導き出す。 ・意見文の書き方を理解し、実施し、評価する。 ・目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味する。 ・書いた報告文を互いに批評し合い、批評を踏まえて論理の展開や表現の仕方を工夫する。	2	授業進度 発表・報告 調査とまとめ 意見文の提出 ワークシートの提出
	定期テスト				1	

計106時間(60分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 32 時間	B「書くこと」 41 時間	C「読むこと」 27 時間
-----------------	-----------------------	------------------	------------------

(定期テスト5時間)

6 課題・提出物等

・単元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。

・長期休業中の課題もご指示します。(副教材など)

・長期休業中の課題は定期テストの範囲に含まれます。

7 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目です。実社会に必要な国語の知識や技能を身につけたり、言葉による見方考え方を働かせ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばしたり、言葉が持つ価値への認識を深めたりすることを目指します。「現代の国語」で学ぶことは、皆さんの生涯にわたる基礎となります。授業では、基礎・基本を大切にするとともに、実際に話したり書いたりする学習活動を通して、応用力を高めていきます。楽しみながら、力を伸ばしていきましょう!

(担当: 新井 久美子)

教科(科目)	公民 (公共)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	実教出版「公共」				
副教材等					

### 1 学習目標

広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、グローバル化する国際社会の中で、主体的に生き、平和で民主的な国家及び社会の形成のために必要な能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会参画をする際に必要な選択・判断するための概念や理論を学習し、主体的に考え行動する力を養う。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的に考察し、公正に判断する力を養う。
- (3) 公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として、自国を愛し、平和と繁栄を図り、また、各国が相互に主権を尊重しあい各国民が協力しあうことの大切さを自覚させる。

### 2 指導の重点

現代の社会に対する関心を高め、また、目まぐるしく変化する社会情勢・国際情勢の中で、的確な判断力を身につけることができるように、身近な社会的事象をとりあげ、考察を深めさせていく。そのためのテーマ学習を多くとりいれていく。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国内の政治・経済や国際情勢、また、地球環境問題などの今日的課題について、さまざまなメディアを活用して資料を収集し、基本的な知識を身につけ問題点を理解している。	現代社会の諸事象について、収集した資料をもとに、客観的に分析し、表現できる。	現代社会の諸事象について、関心を高め、意欲的に追求し、将来を担う社会の一員としての資質を身につけようとしている。

### 4 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法・観点	以上のことを踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポート提出 ・演習プリントへの取り組み などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポート提出 などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ・レポート提出 ・授業中の発言や意見文発表などへの取り組み などから、評価します。
	基本的な知識を身につけ理解しているか。	諸事象について客観的に分析し、表現しているか。	諸事象について、関心を高め、意欲的に追求し、社会の一員としての資質を身につけようとしているか。

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	1 民主国家における基本原理 定期テスト	20	実教出版 「公共」	オリエンテーション 民主政治が成立する歴史的経過と民主政治の基本原則について学ぶ	20	定期テスト  課題レポート  授業への取り組み
6 7	2 日本国憲法の基本的性格 定期テスト	20		日本国憲法成立の経過と基本的性格・内容について学ぶ	20	
9 10	3 日本の政治機構と政治参加 定期テスト	20		国会・内閣・裁判所など日本の政治機構の特色と今日的な課題について学ぶとともに、政党政治や選挙制度と世論の動向などについて学ぶ。	20	
11	4 政党政治と選挙制度 定期テスト	15			15	
12	5 現代の政治社会	15		経済活動の仕組みと世界の経済体制について学ぶ。	15	
1 2 3	6 国際政治の動向と課題 定期テスト	15		国際政治の動向と今日的課題について概観し、日本の果たすべき役割を考える。	15	

計105時間 (50分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・練習問題プリントの提出
- ・テーマ学習等課題プリントの提出

## 7 担当者からの一言

現代の政治・経済について基礎的な知識を身につけるとともに、少しでも興味・関心を高めるために、国内・国外を問わず問題となった事柄について、新聞・資料集なども活用しながら学習していきます。年に数回、レポートを課しますので、積極的に取り組み、必ず提出するようにしてください。

(担当：渡邊由佳)

教科(科目)	数学(数学 I)	単位数	3 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	最新 数学 I (数研出版)				
副教材等	Study-Up ノート 数学 I (数研出版)				

## 1 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

## 2 指導の重点

数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにします。また、式を多面的に見たり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにします。二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。単元ごとに課題学習を行い、身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識します。

## 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、2 次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し活用しようとする、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

## 4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上のことを踏まえ、 ・小テスト ・自習課題、 ・課題テスト、定期テスト などから評価します。	以上のことを踏まえ、 ・授業の取組(問題演習など) ・自習課題、ノート等の提出物 ・長期休業中の課題の提出状況 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。	以上のことを踏まえ、 ・授業の取組(授業態度など) ・自習課題、ノート等の提出物、 ・長期休業中の課題の提出状況、 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法			
4 月 9 日	1章 数と式	A B B A	数と式	整式 整式の加法・減法・乗法 因数分解	3 7 8	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト			
		A B			実数		実数 根号を含む式の計算	4 5	ワークシート(課題)提出
		B C A			1次不等式		不等式・不等式の性質 1次不等式の解法 連立不等式 絶対値を含む方程式・不等式	2 4 4 3	ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト
	2章 集合と命題	A B C A	集合と部分集合 命題と集合	集合 命題 証明法	6 6 5	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト			
					課題学習		方程式の解の性質	2	
10 月 3 日	3章 2次関数	A B B A	2次関数とそのグラフ	関数 2次関数	2 12	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト			
		C A			2次関数の最大・最小		2次関数の最大・最小 2次関数の決定	8 5	
		A B B A A C			2次方程式・2次不等式		2次方程式の解 2次関数のグラフと x 軸の共有点 2次不等式	5 4 8	
					課題学習		旗の片付け	2	

計 105 時間 (50 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・毎週課題を提出してもらいます。
- ・課題に対する小テストを行います。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

## 7 担当者からの一言

簡単で同じような問題を繰り返し解き、基礎の定着をはかることで、必ず自分で解けるようになります。  
(担当：新井真紀、高見英親、酒井利博)

教科(科目)	理科 (科学と人間生活)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年(農業科)
使用教科書	実教出版「科学と人間生活」				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

<p>自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理解を深めるために次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について知識を身につける。</p> <p>(2) 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行う技術を身につける。</p> <p>(3) ものごとを実証的・理論的に考察・分析し、科学的に探究する能力と態度を育てる。</p>
--

### 2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学が農業高校であり、専門性に繋がるコースがあることも踏まえ</li> <li>①自然の基礎的な原理・法則を理解する能力を養うとともに、農業との関わりについて理解を深める。</li> <li>②身近な物質、科学技術の進歩と人間及び農業の関係にも触れる。</li> <li>③自然が日常生活と深く関わっていることを理解することに重点をおく。</li> <li>④高校卒業後の進路先が多岐にわたっていることより、個々の進路目標に対応する。</li> </ul>
--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。</p>	<p>人間生活と関連のある自然の事物や現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。</p>	<p>自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度が養われている。</p> <p>自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高めている。</p>

### 4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト・定期テストの分析</li> <li>・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察</li> <li>・実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認</li> </ul> <p>などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト・定期テストの分析</li> <li>・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察</li> <li>・実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認</li> <li>・振り返りシートの記述の分析</li> </ul> <p>などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の発言、観察・実験への取り組みの観察</li> <li>・実験レポートやワークシート、提出物などの内容の確認</li> <li>・振り返りシートの記述の分析</li> </ul> <p>などから評価します。</p>
	<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」「B：おおむね満足できる」「C:努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。</p>		

### 5 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	1章 科学と技術の発展	9	1.科学と技術の始まり 2.海 ―とくに深海を科学の眼で見よう― 3.土 ―農業を通して考える―	現代の科学技術文明が科学によって支えられ発展してきたことを理解させる。海洋の研究・調査の意義や役割を理解させる。 農業には、生物や気象などさまざまな自然現象が関連しており、科学技術を利用することで農業が発展してきたことを理解させる。自然界は未知のことが多く、科学技術によって地球環境に影響を及ぼすこともあり、研究が進められていることに気づかせる。	a b b c a	ワークシート(課題提出) ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト

5 6	2章 1節 物質の科学 材料とその再利用	20	1.生活の中のさまざまな物質 2. 金属 3. プラスチック 4. セラミック	身の回りの天然の物質や人工の物質がどのような成り立ちでできているか確認させる。物質の最小単位である原子は約百種しかないが、組合せにより非常に多くの物質が生まれ、性質も決定されることに気付かせる。原子の構造、化学結合について理解させ、それらが物質の性質と関係していることに気付かせる。	a b b abc c a	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 実験レポート 授業態度 定期テスト
7	3章 1節 生命の科学 ヒトの生命現象	12	1. 私たちの生活環境と眼 2. ヒトの生命活動と健康の維持 3. ヒトの生命現象と DNA	ヒトの眼の構造や、ホルモンの働きを理解させる。からだの防御の仕組み、抗体による免疫の仕組み、予防接種について理解させる。DNA の構造を理解させる。DNA の転写・翻訳によってつくられたタンパク質がヒトの生命現象を支えていることを理解させる。	a b b c a	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト
9	2節 微生物とその利用	12	1. いろいろな微生物 2. 微生物の利用 3. 生態系での微生物	微生物発見の歴史について学習させる。発酵食品中の微生物の観察を通し、発酵や腐敗が私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。微生物が医薬品を作ることに役立っていること、微生物の働きによる下水処理の仕組みについても理解させる。	a b b c a	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト
10	4章 1節 光や熱の科学 熱の性質とその利用	12	1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用	温度は物に関わる量であることを物体をつくる分子・原子の熱運動と結びつけて理解させる。熱平衡・物質の熱容量・比熱、熱量の保存について理解させる。身の回りの具体的事実から熱現象は不可逆的であることを理解させる。	a b b c a	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト
11	2節 光の性質とその利用	12	1. 光 2. 電磁波の利用	光の直進性、光の反射の法則、屈折の法則を理解させる。光を使っているいろいろな物を見ることができると、光は電磁波の一種であることから、電磁波を使って様々な物を見ることができると理解させる。波の特性として回折と干渉を理解させる。	a b b c a	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト
12	5章 1節 宇宙や地球の科学 太陽と地球	10	1. 太陽系の天体と人間生活 2. 潮汐と人間生活 3. 太陽の放射エネルギー	太陽や星の天球上の日周運動や年周運動を、地球の自転運動と公転運動から理解させる。太陽の天球上の運行や月の満ち欠けの周期性が時や暦など人間生活に深く関わっていることを学習させる。太陽の活動による気象現象を学習し様々な恵みと気象災害を理解させる。	a b b c a	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト
1 2	2節 身近な自然景観と自然災害	15	1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. 自然の恵みと自然災害	身近な自然景観が風化作用、侵食作用、運搬作用・堆積作用などにより、長い時間の中で変化してきたことを理解させる。地震や火山分布がプレートの境界面で起きていることを理解させる。火山のメカニズムを学習し、火山災害を引き起こす現象を理解させる。地震のメカニズムを学習し、地域において将来おこる可能性のある地震のタイプや規模などを確認させる。	a b b c a	ワークシート(課題)提出 ワークシート(発問)評価 授業態度 定期テスト
3	6章 これからの科学と人間生活	3	(課題研究等)	科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。	abc	レポート

計 105 時間 (50 分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ ワークシート、ワーク、ノートの提出。
- ・ 小テストの実施、実験レポートの提出。

## 7 担当者からの一言

私たちの身のまわりにはたくさんの科学現象があります。ふだん当たり前と感じていた現象が、実は法則があったり規則に従っていたりします。授業に集中することはもちろんですが、興味をもって学習に臨むことが何よりも大切です。板書をそのまま写すだけでなく、教科書を読み、自分でまとめてみましょう。インターネットや図書室(漫画や図鑑、専門書など)の利用もお勧めです。  
(担当：上村、曾田)





## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	体づくり運動	11 時間	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	a	評価規準と評価方法を踏まえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。
5 6	選択① ・陸上競技(短距離) ・器械運動 ・ダンス	18 時間	・100m, 200m ・マット運動 ・現代的なリズムのダンス	a c	
7 9	選択② ・陸上競技(投てき) ・器械運動 ・ダンス	18 時間	・円盤投 ・跳び箱 ・創作ダンス	a c	
9 10	陸上競技	12 時間	・持久走	a	
11. 12.	選択③ ・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ベースボール型 ・武道	20 時間	・サッカー ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道	a b c	
12	体育理論	6 時間	1 単元 スポーツの発祥と発展	a b	
1 3	選択③ ・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ベースボール型 ・武道	20 時間	・バスケットボール ・バドミントン ・バレーボール ・柔道	a b c	

計 105 時間 (50分授業)

### ※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	体づくり運動	体育理論	器械運動からダンスまでの領域
	11 時間	6 時間	88 時間

## 6 課題・提出物等

身体的理由により、運動が制限される生徒に対しては、レポート作成を指導します。

## 7 担当者からの一言

- ・運動が得意、不得意にかかわらず、体を動かすことの楽しさや心地よさを感じてください。
- ・仲間と共に運動することで、達成感や充実感を味わってください。
- ・年間を通じて自らの体力向上に努め、生涯にわたって健康を保持増進できる力を身につけましょう。

(担当： 古畑 豊和 )

教科(科目)	保健体育 (保健)	単位数	1 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店 現代高等保健体育				
副教材等	大修館書店 現代高等保健体育ノート				

### 1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

### 2 指導の重点

- ① 健康の大切さや体の発育・発達などの基礎的・基本的な事項が理解できるようにする。
- ② 健康的なライフスタイルを確立する。
- ③ 深刻化する健康・安全に関する新たな課題等に対応する。
- ④ 心の健康の保持増進に関する理解を図る。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

### 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、提出物などの内容確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表やグループワークへの取り組みの観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから評価します。

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 ～ 7	1 単元 現代社会と健康	11時間		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の考え方と成り立ち</li> <li>・私たちの健康のすがた</li> <li>・生活習慣病の予防と回復</li> <li>・がんの原因と予防</li> <li>・がんの治療と回復</li> <li>・運動と健康</li> <li>・食事と健康</li> <li>・睡眠・休養と健康</li> </ul>	a b c	評価規準と評価方法を踏まえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。
7	定期テスト				a b	
9 ～ 11.	1 単元 現代社会と健康	14 時間		<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫煙と健康</li> <li>・飲酒と健康</li> <li>・薬物乱用と健康</li> <li>・精神疾患の特徴</li> <li>・精神疾患の予防</li> <li>・精神疾患からの回復</li> <li>・現代の感染症</li> <li>・感染症の予防</li> <li>・性感染症・エイズとその予防</li> <li>・健康に関する意志決定・行動選択</li> <li>・健康に関する環境づくり</li> </ul>	a b c	
12.	定期テスト				a b	
12 ～ 3	2 単元 安全な社会生活	10 時間		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の現状と発生要因</li> <li>・安全な社会の形成</li> <li>・交通における安全</li> <li>・応急手当の意義とその基本</li> <li>・日常的な応急手当</li> <li>・心肺蘇生法</li> </ul>	a b c	
2	定期テスト				a b	

計 35 時間 (50 分授業)

### ※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	1 単元 現代社会と健康 25 時間	2 単元 安全な社会生活 10 時間
-----------------	-----------------------	-----------------------

## 6 課題・提出物等

定期的に学習ノートを提出します。

## 7 担当者からの一言

- ・現代社会における様々な健康課題に対して、自らの考えを持てるようにしましょう。
- ・授業で得た知識や課題解決の方法を実生活に役立てられる力を身につけてください。

(担当： 古畑 豊和 )

科目	音楽 I	単位数	2	学年	1	科	全科	コース	全コース
使用教科書	教育芸術社『Mousa 1』								
副教材	教育芸術社『高校生のための音楽研究ノート』								

## 1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。

②自己の「イジ」をもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする

③主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

## 2 指導の重点

音楽のよさや美しさを感じ取り、感性を高め、中学校音楽科の学習を踏まえて、思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりし、音楽の文化的・歴史的背景を学び、個性をいかしながら他者とのコミュニケーションを図り演奏し、日本や諸外国の様々な音楽を学習することで、多様な観点から捉え、主体的にかかわりを持ち、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情を育てていきます。

## 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている音楽同士の関連を知覚し、それらの働きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組んでいる。

## 4 評価基準と評価方法

評価基準は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解しようとしている。 ・創意工夫を生かした音楽表現を身につけ、歌唱、器楽、創作で表そうとしている。	音楽を形づくっている音楽同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしようとしている。	主体的協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
以下の観点を踏まえ、 ・実技試験 ・ワークシートの確認 などから評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・筆記試験 ・授業中の発言、発表などへの取り組みの観察 ・提出物の内容の確認 などから評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・授業中の学習活動の観察 ・ワークシートなどの提出物の内容の確認 などから評価します。

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	季節の歌	8 A 歌唱	発声の方法を学び、詩の内容の表現を工夫して歌う。	a, b, c	学習活動の状況
5	世界諸民族の音楽	8 B 鑑賞	アジアから諸外国の音楽や楽器とその演奏法を学び、曲を鑑賞する。	a, b, c	学習活動の状況
6	楽譜の読み方	8 A 創作	副教材を使用して楽譜の読み方書き方を学ぶ。	a, c	ワークシートの内容
7	テスト	2		a, b, c	筆記試験 実技試験
9	外国語で歌う	12 A 歌唱 B 鑑賞	英語、イタリア語、ドイツ語の曲を原語で歌うことで詩と音楽の関係について学び、表現を工夫して歌う。	a, b, c	学習活動の状況 ワークシートの内容 実技試験
10	リコーダー	8 A 器楽	正しい奏法を身につけ、工夫してより美しい音で演奏する。	a, b, c	学習活動の状況
11	ソプラノ リコーダー	8 A 創作	副教材を使用して、音程、音階、和音、コードネームについて学ぶ。	a, c	ワークシートの内容
12	音楽の仕組み	8 B 鑑賞		a, c	ワークシートの内容
	テスト	2		a, b, c	実技試験
1	日本の歌	6 A 歌唱	日本歌曲、フォークソングをそれぞれに相応しい発声や表現を工夫する。	a, b, c	学習活動の状況
2	日本の伝統芸能	5 B 鑑賞	日本の伝統芸能を学び、楽曲を鑑賞する。	a, c	ワークシートの内容
3	曲を作る	3 A 創作	学んできたことを基に、作曲して発表する。	a, b	学習活動の状況 作品発表

計 70 時間（50分授業）

## 6 課題・提出物等

ワークシートや感想文などを記入して提出（提出期限は厳守）します。

## 7 担当者から一言

学習活動に積極的に取り組み、気持ちを音に込めて表現しましょう。また、日本の伝統芸能や諸外国の多種多様な音楽を楽しみましょう。

担当：坂口

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2単位	学年（コース）	1学年（コース）
使用教科書	教育図書 『書Ⅰ』『書Ⅰプライマリーブック』				
副教材等					

### 1 学習目標

<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>（２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>（３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
---

### 2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な用具・用材の扱いを理解し、自らの構想に基づき自己表現することを目指します。</li> <li>・古典の美と技法を学び、創造的な表現をするための技能を身に付け表すことを目指します。</li> <li>・鑑賞の学習では、漢字の各書体や仮名の生まれた背景や特徴、書の伝統と文化について理解し、書のよさや美しさを創造的に味わうことを目指します。</li> </ul>
---

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。</li> <li>・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>

### 4 評価基準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。</li> <li>・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習活動への参加状況や態度</li> <li>● 各時間、提出を指示した作品</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作品制作カードの記入状況</li> <li>● 鑑賞カードの記入状況</li> <li>● 各時間、提出を指示した作品</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習活動への参加状況や態度</li> </ul> <p>などから、評価します。</p>

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4 月	◎書へのいざない 書写から書道へ	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校までの書写の学習を振り返り、書写と書道の共通点と相違点を理解する。</li> <li>・書道の学習に必要な用具、用材について理解する。</li> <li>・楷書の特徴を知る</li> </ul>	a	授業観察
	◎漢字の書 ○楷書		a			
5 月	孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記 鄭義下碑 ○篆書 ○篆刻	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・孔子廟堂碑、九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑、牛橛造像記、鄭義下碑、それぞれの鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。</li> <li>・篆書の特徴を理解する。</li> <li>・落款の役割と篆刻の基本を知り、自分を表す印を制作する。</li> </ul>	abc  a bc	授業観察 提出作品 作品制作カード、鑑賞カードの記入状況
9 月	漢字の書の創作  ○行書 蘭亭序 風信帖  ◎仮名の書 蓬萊切	30		<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作の手順に従い、高農祭で発表する楷書の書の作品制作をする。</li> <li>・作品を展示し、他者の作品を鑑賞する。</li> <li>・行書の特徴を知る。</li> <li>・蘭亭序、風信帖、それぞれの鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ</li> <li>・仮名の書を知る。</li> <li>・連綿、平仮名、変体仮名を知り、表現の幅広さを感じ得する。</li> <li>・蓬萊切の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ</li> </ul>	abc  c a abc  a abc  abc	授業観察 提出作品  作品制作カード、鑑賞カードの記入状況
1 月	◎漢字仮名交じりの書の作品制作 自分らしい表現を求めて ◎生活の中の書	16		<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字仮名交じりの書を知る。</li> <li>・漢字と仮名の調和を学ぶ。</li> <li>・創作の手順に従い、意図に基づいて創作する。</li> <li>・生活の中の書を心を込めて書く</li> </ul>	a a abc  abc	授業観察  提出作品 作品制作カード、鑑賞カードの記入状況

計70時間（50分授業）

## 6 課題・提出物等

- ・各单元ごとに作品の提出がありあす。
- ・課題に応じて作品制作カード、鑑賞カードの提出があります。

## 7 担当者からの一言

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。授業中での進歩、単元をとおしての進歩、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習の取り組み方をしていきましょう。
- ・「書道I」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになって欲しいと思います。

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2 単位	学年（コース）	1 学年（全コース）
使用教科書	光村図書「美術Ⅰ」				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

<p>1.対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>2.造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>3.主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育む。芸術文化に親しみ、生涯にわたって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

### 2 指導の重点

<p>表現活動や鑑賞活動を通して何を理解しているか、何ができるかという①「知識・技能」、また、理解していること、できることをどう使うか②「思考力・判断力・表現力」、さらに③「学に向かう人間性」の3つの観点を指導のポイントとする。</p>
--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</p>	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>

### 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<p>・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</p> <p>・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。</p>	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>	<p>美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>以上の観点を踏まえ、学習活動の取り組みの姿勢と発言、提出された作品や各種記述シート等で総合的に評価する。</p>		
	<p>以上の観点を踏まえ、アイディア性・表現性・制作過程・材料活用性を提出された作品や各種記述シート等で総合的に評価する。</p>		
	<p>以上の観点を踏まえ、授業態度・表現意欲・提出物頻度を提出された作品や各種記述シート等で総合的に評価する。準備や片付け等も授業態度に含む。</p>		

### 5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4 5	課題「描写と観察」	6 素描	鉛筆・色鉛筆 画用紙等	・いつも何気なく目にしてのものをスケッチし、見つめ直す。文房具や靴、自分の手などの対象を観察しながら、形態や材質、空間を捉えて描写する。また色鉛筆や水彩絵具で着色することで、色彩や陰、材質などの違いに気づく。	c b a	授業観察 制作過程 提出作品
6	課題「色彩基礎」	6 デザイン	アクリルガッシュ 画用紙	・色彩の属性について学び、3原色と白黒のみの混色で45色を作ってみた後、目的に合わせた構成・配色ができるようにする。	c b a	授業観察 制作過程 提出作品
7	課題「色面の構成」	10 デザイン	アクリルガッシュ 画用紙	・一定の条件による色面の分割や配色などの工夫により、変化と統一感のある美しい色面構成を目指す。色彩用語を学びながら、色彩の体系と機能について理解する。	c b a	授業観察 制作過程 提出作品
7	課題「作品鑑賞」	3 鑑賞	教科書	・教科書の各ページに掲載された作品図版を鑑賞する。作者名を知り、作者の表現の意図、作品サイズ、年代、国、地域、使用材料などの情報からより深く内容を読み解く。	c b	発表の様子 ワークシート
9 10	課題「友人を描く」	16 絵画	アクリルガッシュ イラストボード	・一学期で学んだ素描と色彩の課題を応用し、身近な友人をモデルにして描く。愛情や思いを込めて描くことで対象の内面から滲み出る人間性を感じさせるような表現を目指す。	c b a	授業観察 制作過程 提出作品
11	文化祭展示					
11 12	課題「クラフト」	16 工芸	木製板 彫刻刀	・一枚の板から自分のイニシャルをデザインしたネームプレートを制作する。材質の特性や道具の使い方を理解し工夫しながら作業する。その過程で手作りの良さを味わい、生活と工芸の関わりについて理解を深める。また、伝統工芸への関心を持つ。	c b a	授業観察 制作過程 提出作品
1 2 3	課題「いろいろな表現方法」	13 絵画	紙素材他	・モダンテクニックによる遊び性のあるトレーニングを通して、絵画表現の多様性を楽しむ。	c b a	授業観察 制作過程 提出作品

※領域ごとの授業時間数

領域ごとの 授業時間数	素描 6時間	絵画 29時間	デザイン 16時間	クラフト 16時間	鑑賞 3時間
----------------	-----------	------------	--------------	--------------	-----------

6 課題・提出物

各単元の作品は各学期の主な評価対象である。従って期間内に必ず提出すること。また課題への取り組み、制作過程における表現方法の工夫、材料活用性を大切にする。

7 担当者からの一言

・造形活動は、場と人、人と人を繋ぐ有効なメディアとして機能しています。活動をとおした共通の関心とコミュニケーションを喚起していくことを意識しています。また、学校もひとつのコミュニティとして位置づけ、学校空間が活性化する展示方法を試みています。

・造形活動が新たな次元へと展開していく過程で、「いま・ここ」にそのつど自己更新していくダイナミズムを経験することで、多様な社会的場面に積極的に参加する意欲を喚起したいと思います。  
(担当：福島)



教科(科目)	英語コミュニケーション I	単位数	3 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	『All Aboard! English Communication I』 (東京書籍)				
副教材等	エースクラウン英和辞典、All Aboard! Workbook, (東京書籍) 『フレーズで英単語 3000』『フレーズで英単語 3000 WORKBOOK I』 (浜島書店) Listening Platform 1 (いっぴずな書店)				

### 1 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

### 2 指導の重点

- ①中学校における基礎的な学習内容を踏まえ、言語活動に必要な4技能の向上を目指した活動を行う。
- ②場面に応じて、自分自身の考えや思いを適切に表現する能力を養う。
- ③コミュニケーション活動に必要な基礎的な単語を習得し、基本的な英文法を理解し活用する。
- ④教科書の題材を通して外国の文化に興味関心を持ち、英語習得に対する積極的な態度を養う。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。</li> <li>・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</li> </ul>	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

### 4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	外国語の4技能(書く(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身につけている。	コミュニケーションを行う場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題や身近な話題について、情報や考えなどを的確に理解、整理し、適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自らの考えや意見などを話したり書いたりして表現しようとしている。
評価方法	以上の観点をふまえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取組(授業態度、学習活動への参加状況など)</li> <li>・提出物(ワークブック、ノート、課題等)の内容</li> <li>・小テスト(確認テスト、単語テスト)</li> <li>・定期テスト</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取組(授業態度、学習活動への参加状況など)</li> <li>・提出物(ワークブック、ノート、課題等)の内容</li> <li>・小テスト(リスニング)</li> <li>・定期テスト(リスニング&amp;英作文)</li> </ul> などから、評価します。	以上の観点をふまえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取組(授業態度、学習活動への参加状況など)</li> <li>・提出物(ワークブック、ノート、課題等)の内容</li> <li>・小テスト(確認テスト、単語テスト)</li> <li>・定期テスト</li> </ul> などから、評価します。

## 5 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法	時数
4	Warm-up 1 Warm-up 2 Warm-up 3 Communication 1  英文のしくみ 1 Pre-Lesson 1 Pre-Lesson 2	英語のアルファベットを使って単語を正確に書かせ、発音する。 授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を理解する。 辞書の使い方について学習させ、疑問詞のある疑問文と答え方を理解する。 自己紹介というテーマでメモを作成し、相手とコミュニケーションできる技能を身につける。 主語+動詞、主語+動詞+補語、主語+動詞+目的語を理解する。 自分の名前・性格・特徴などを、be 動詞を用いて、相手に伝える技能を身につける。 自分の日常の行動や食べ物の好みなどを、一般動詞を用いて、相手に伝える技能を身につける。	a,b b,c a,b a,b a c a,c	ワークシート 発表、リスニング 定期テスト 確認テスト 単語テスト 授業態度 ワークブック	9
5 6	Lesson 1 Breakfast around the World  Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	動詞の過去形を理解する。また、世界の朝食について学んだ事や好きな食べ物について、自分の考えや好み、その理由などを伝えられる。  進行形 (be 動詞+動詞の-ing 形) を理解する。また、オーストラリアに生息する珍しい野生動物について学んだ事や好きな動物について、自分の考えや好み、その理由などを伝えられる。	a,b b,c a,b a,b a c a,c	ワークシート 発表、リスニング 定期テスト 確認テスト 単語テスト 授業態度 ワークブック	20
7 8 9	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku  Lesson 4 A Miracle Mirror	助動詞 can, will を理解する。また、列車運転士の職業観の紹介やある場所への行き方とそこでできること、自分ができること・できないことについて、助動詞 can, will を用いて、情報や考えを話して伝えられる。 to 不定詞 (to+動詞の原形) を理解する。また、ウユニ塩原でやりたいこと、行ってみたい場所ややりたいことについて、to 不定詞を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝えられる。	a,b b,c a,b a,b a c a,c	ワークシート 発表、リスニング 定期テスト 確認テスト 単語テスト 授業態度 ワークブック	24
10 11 12	Lesson 5 Learning from the Sea  英文のしくみ 2  Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	動名詞 (動詞の-ing 形) を理解する。また、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、動名詞を用いて、考えや気持ち、情報などを話して伝えられる。  主語+動詞+目的語+目的語を理解する。  受け身 (be 動詞+過去分詞) を理解する。また、好きな絵の紹介とその理由について、受け身を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝えられる。	a,b b,c a,b a,b a c a,c	ワークシート 発表、リスニング 定期テスト 確認テスト 単語テスト 授業態度 ワークブック	32
1 2 3	Lesson 7 A Diary of Hope  Lesson 8 A Door to a New Life  英文のしくみ 3	比較表現を理解する。また、アンネ・フランクについて学んだり、関心のある人物について自分で調べた事柄を用いて、考えなどを伝えられる。  現在完了形 (have [has]+過去分詞) を理解する。また、ロボットカフェについて学んだり、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイデアを提案できる。  主語+動詞+目的語+補語を理解する。	a,b b,c a,b a,b a c a,c	ワークシート 発表、リスニング 定期テスト 確認テスト 単語テスト 授業態度 ワークブック	18

計 103時間 (50分授業)

## 6 課題・提出物等

- ・ワークシート、ワークブックの提出。長期休業中課題の提出。
- ・小テスト(確認テスト、単語テスト、リスニングテスト)の実施。

## 7 担当者からの一言

英語を通して、日常的な話題や身近な話題について、自分の考えを整理し、コミュニケーションを積極的に図りましょう。定期テスト、発表、小テスト、提出物、授業への取り組みを総合的に評価しますので、日頃からコツコツと取り組むことが大切になります。間違えを気にせず、前向きに授業に取り組みましょう。

(担当：佐藤美穂子、高原貴美子)

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各学科・コースに関する体験的な学習を通して、農業の各分野における幅広い知識と技術を習得させ、地域社会で貢献できるよう主体的かつ協働的に取り組む態度を育てる。
- (2) 各コースの学習やガイダンスを通じて、希望進路を踏まえたコースを自ら選択できるようにする。
- (3) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとする力を養わせ、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

### 2 指導の重点

- (1) 各コースの授業を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 将来を見据えた8つコースの特性を伝え、目標に向かって努力する力や自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 農業の幅広い基礎的な実習を通して、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む力を身につけさせる。
- (4) 農業クラブ活動を通じて総合的な農業の知識と技術を習得させる。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各コースの学習を通じて知識や技能を身につけ、各コースの特性と重要性を理解している。	各コースの知識や技能を再確認し、自分の思いや考えを広げたり深めたりしながら、他者に伝わるように表現している。	実習や各種課題に対して、積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、協働的に取り組んでいる。

### 4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上のことを踏まえ、 ①定期考査 ②単元ごとの小テスト などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ①定期考査およびその分析 ②レポートやノート、課題、提出物などの記述の分析 などから、評価します。	以上のことを踏まえ、 ①レポートや課題、提出物 ②農業鑑定のテストや農業技術検定資格試験の点数や勉強への取組状況 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	ガイダンス		コースを知ろう	・1年間の流れやコース選択、各コースの特徴について知る。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取組</li> <li>・レポートや課題</li> <li>・農業鑑定テスト</li> <li>・定期考査 (知識の確認)</li> </ul>
6	8コースのローテーション学習 ① 農業クラブ活動		本校のコースや農業の授業を体験しよう	・各コースでの実習を体験し、学習した内容をレポートにまとめる。	16	
	定期テスト			・農業鑑定競技や意見発表会を通して、農業の知識や技能を総合的に身につける。	2	
7	8コースのローテーション学習 ②			・定期考査や小テスト等の学習で習熟度を確認する。	1	
10	ガイダンス コース別学習		コースに分かれて基礎的な知識と技術を身につけよう	・コースに分かれて専門的な基礎知識や技能を習得し、2年生からのコースごとの学習へ繋げる。	1 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取組</li> <li>・レポートや課題</li> <li>・定期考査</li> </ul>
11	定期テスト コース別学習			・定期考査や小テスト等の学習で習熟度を確認する。	1 24	
	農業クラブ活動			研究活動の発表を聞いて、考え感想文を作成する。	4	
2	定期テスト			・定期考査や小テスト等の学習で習熟度を確認する。	1	

計 70時間 (50分授業)

### ※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 時間	B「書くこと」 時間	C「読むこと」 時間

## 6 課題・提出物等

- ・毎時間の授業レポートがあります。メモを取り、レポートの見本を参考にしながら作成し、提出期限を守りましょう。
- ・4月に提出する意見文も評価に含まれます。
- ・定期テストは各学期に1回ずつとなります。1学期はローテーション学習の内容、2・3学期は各コース担当者より指示します。
- ・コース希望調査は、とても大事な書類です。提出期限を必ず守りましょう。

## 7 担当者からの一言

安全な授業を行うために正しい服装で参加し事故のないように努めてください。またよくまとまったレポートを書いたり、提出物を期限内に出したりすることは、高校3年間だけでなく、社会人としても必要なことです。大変なこともありますがんばりましょう。そして農業について総合的に学び、進路を興味関心あることを見つけ、進路を見据えながらコース選択に繋げてほしい。そして農業を楽しみましょう。

(担当：久保田直樹 清水さやか 樋浦俊衛 石田清尚 松田俊一 中野忠雄 山田隆一 鈴木英明)

教科(科目)	農業（農業と環境）	単位数	4単位	学年(コース)	1学年(農業科)
使用教科書	実教出版『農業と環境』				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

農業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

### 2 指導の重点

野菜と作物分野の学習を通して、農業の基礎的な知識・技術の習得と実践的な態度と能力を育成する。

- ① 水稲の栽培実習や各種野菜の栽培・管理・収穫を通じて、農業と食の大切さを伝える。
- ② 農業と環境との関わりを調査し、保全方法の基礎を伝える。
- ③ 調査・研究活動を行い、まとめる力、考察する力、発表する力を身につけさせる。
- ④ 農業クラブ活動を通じて農業学習の特質を実践的に学び重要性を伝える。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うようにしている。</li> </ul>

### 4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、実習、作業での表現の観察 ・ レポートやノート、課題、提出物などの内容の確認、提出状況 ・ 定期テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、各種観察や作業への取組の観察 ・ レポートやノート、課題、提出物などの内容の確認 ・ レポートやノート、課題、提出物などの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・ 授業中の発言、各種観察や作業への取組の観察 ・ レポートやノート、課題、提出物などの内容の確認 ・ レポートやノート、課題、提出物などの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。  内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	作物 (2単位) 1 農業と環境の 学び方			・学習の方法について理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取組み (意欲・関心・態度など)</li> <li>作業に取り組む様子</li> <li>レポートや課題をまとめる力</li> <li>課題の提出</li> <li>定期考査</li> </ul>
7	2 農業と環境の プロジェクト の実際		イネの 栽培管理 生育調査	・実際の作業や管理を体験する。 ・イネの生育調査の方法を知る。	30	
9	3 作物の特性と 栽培のしくみ			・収穫後、得たデータをもとに成果をまとめる。	20	
12	4 イネの栽培と 利用		収量調査	・イネの調査内容をまとめる。	12	
1	5 学校農業クラ ブ活動のまと め		食味調査 農業クラ ブ活動の まとめ	・調査や研究を行い、発表する力を身につける。 ・農業クラブ活動、FFJ検定のまとめ、審査する。	2	
3	他 定期テスト				4	
	作物分野合計	70時間				
4	野菜 (2単位) 農業と環境を 学ぶ			下記の内容について理解させる。 ・農業と環境の学び方 ・学校農業クラブ活動	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取組み (意欲・関心・態度など)</li> <li>作業に取り組む様子</li> <li>レポートや課題をまとめる力</li> <li>課題の提出</li> <li>定期考査</li> </ul>
5	栽培・飼育と 環境のプロジェ クト		農業と環 境	・ダイズの栽培 1, 栽培管理 2, 生育調査・観察 3, レポート作成	25	
6						
7						
8			FFJ環 境調査			
9						
10				・ダイコンの栽培 1, 栽培管理 2, 生育調査・観察 3, レポート作成	25	
11						
12						
1	栽培と飼育の基 礎			・作物の特性と栽培のしくみ	10	
2				・作物をとりまく環境とその管理	6	
3						
	野菜分野合計	70時間				

計 140時間 (50分授業)

### ※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 時間	B「書くこと」 時間	C「読むこと」 時間
-----------------	--------------------	---------------	---------------

## 6 課題・提出物等

<p>作物 ・毎時に実験・実習に関するレポート提出があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各考査時に実習手帳提出があります。</li><li>・大型連休時に専門用語の課題提出があります。</li><li>・夏季休業中に週1回の生育調査があります。</li><li>・校内農業鑑定競技の取組、ノート提出があります。</li><li>・日本農業技術検定の取組、課題提出があります。</li></ul>	<p>野菜 ・毎時に実験・実習に関するレポート提出があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各考査時に授業プリント提出があります。</li><li>・生育調査レポート提出があります。</li><li>・F F J環境調査提出があります。</li></ul>
--	---

## 7 担当者からの一言

「農業と環境」の関わりを学習すると共に、作物栽培を通して基礎知識や技術を身に付けてほしい。また、自ら進んで座学や作業・実習に参加し、考える力や観察、実験・実習を通して記録の整理や活用方法を身につけてほしい。

生育調査記録や実験・実習および観察レポートなどの提出物は必ず提出してください。

(担当：久保田、池亀、五十嵐、齊藤、根岸)

教科(科目)	農業（農業と情報）	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	実教出版『農業と情報』				
副教材等	30時間でマスター Office2019				

### 1 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

### 2 指導の重点

- ①情報モラル、情報セキュリティについて正しい知識を習得し情報化社会におけるマナーを身につけさせる。
- ②コンピュータやワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトに関する基礎知識を習得させる。
- ③課題演習を通じて、様々な状況に対応したソフトウェアや情報ツールを使いこなす技術を習得する。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校での学習や実習、産業現場での実習を通して、農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。	農業情報の活用について、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもって思考を深め、科学的な根拠などに基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	農業情報を活用した事例をもとに、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

### 4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・表やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシートなどの提出物などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表 ・レポートやワークシート提出物などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表 ・レポートやワークシート、提出物 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		



## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4   5	第1章 私たちの生活と農 業の情報化 第2章 社会を支えるコン ピュータ		<通年> 教科書 副教材 タブレット PC	・日常生活と農業におけるコンピュータの役割を理解する。 ・コンピュータのしくみを理解する。 ・情報マナー、情報セキュリティについて理解する。	2  2 2	ペーパーテスト 授業中の発言 レポートやワークシート 各種課題への取り組み状況 出席状況 これらを総合的に判断し評価する。
6	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 定期テスト			・ワープロソフトを利用した文書作成演習を行う。	12  1	
7   10	第5章 農業情報の分析と活用			・表計算ソフトを利用した表計算およびグラフ作成演習、データ整理演習を行う。	23	
11 12	第6章 農業学習と情報活用  定期テスト			・基礎的なプログラミング演習を行う。 ・プレゼンテーションソフトの活用演習を行う。	4 14 1	
1   3	第4章 スマート農業への展望  定期テスト			・インターネットを活用し、スマート農業に関する調べ学習を行う。 ・各種ソフトウェアを用いて調べ学習をまとめ、発表を行う。	4 4 1	

計 70 時間 (50分授業)

### ※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 時間	B「書くこと」 時間	C「読むこと」 時間

## 6 課題・提出物等

・授業の進み具合により、その都度指示する。

## 7 担当者からの一言

・世の中に情報はあふれていますが、情報モラル、情報セキュリティを正しく理解し、活用できる能力を養いましょう。  
 ・様々な演習を行いますので、休まず継続して取り組むようにしましょう。 (担当：吉山、根岸)